令和６年第422回信濃町議会定例会12月会議 会議録（3日目）

（令和６年12月５日　午前10時35分）

●議長（佐藤武雄）　休憩前に続き会議を開きます。

通告の７、佐藤博一議員。

1. 姉妹都市交流について
2. 信濃町の認知度アップについて
3. 保育・教育環境について

議席番号６番、佐藤博一議員。

◆6番（佐藤博一）　議席番号６番、佐藤博一でございます。3つの質問を行いたいと思います。よろしくお願いします。まず最初に姉妹都市交流についてでございますが、姉妹都市、昨日も同僚議員が質問をしておりまして、私どもには流山市さんと能登町さんが2つございます。今日に関しましては、能登町さんに関しましては、まだまだ災害支援という意味合いが強いものでございますから、流山市さんを中心に質問をしていければなと思います。まず最初に町長にお伺いしたいと思います。昨年、町長におかれましては、流山市さんの市民まつりに参加なさる前に、非常にこの議場でお聞きして、印象に残っているのは、韓国に行ってらしたと、韓国からそのままその足で流山市に行かれたと、非常にバイタリティあふれた活動的な町長だなと印象深く思った次第でございます。今年はストレートに流山市の方に、行かれたと思うんですが、この市民まつり、流山市さんではかなり定着しておるお祭りでございますけれども、そこに参加されての町長の所感、思いはいかがだったでございましょうか。お伺いします。

●議長（佐藤武雄）　鈴木町長。

■町長（鈴木文雄）　それではただいま頂きました佐藤議員からのお尋ねにお答えいたします。流山市民まつりへの参加につきましては、昨年に引き続きまして2回目となりましたけれども、今年は快晴という絶好の天候にも恵まれまして、メイン会場となりました総合運動公園には、5万人を超える市民の皆様がお集まりいただくなど、大変な盛況となったところでございます。信濃町からは信濃町振興局、商工会、観光協会、ふるさと振興公社を始めといたしまして、大勢の皆さんにご協力いただく中、特産品の販売も行い、用意した商品の多くは昼までに完売といった状況でございました。中でも汗ばむような陽気でもありましたので、トウモロコシのジェラートは大変な人気を博しまして、お子様からご年配の方々に至る様々な年齢層の方々に、信濃町の味を提供することができたことを、大変嬉しく感じたところでございます。また、前夜祭もございまして、そこでご一緒させていただきました流山市の教育委員会の皆さん、学校の校長先生はじめ、教員の皆様も大勢お見えになりましたけれども、その皆さん方が、その後、来年度以降

の事業の下見というような形、そしてまた先月開催されました一茶忌にも、足を運んでいただきましたので、今後の交流事業が更に活発に、そして深まっていくことを大いに期待しているところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一）　町長が快晴の中、非常に印象深く、流山の市民まつりに参加されてきた思いを今も聞いてきました。5 万人という、今人数を聞いて大変驚いたわけですけど、21 万から 22 万の人口でございますから、4 人に 1 人ぐらいはお祭りに来ていたのかなと、非常に羨ましくも思った次第でございます。また一茶忌に関しては教育委員会さんがお見えになり、教育委員会の方々と町長、町部局で、情報をお互いに交流した旨はうれしく思ったところでありますが、議会におきましてもですね。前夜祭の後に我々ちょっと有志ではありましたけれども、流山市に向かいまして交流を深めたところでございます。また、私どもの新人の議員、一期生の議員の皆さんが、5 月だったと思うんですけれども、流山市にお伺いし、その後 7 月には流山市さんから、新人の議員さんがお見えになり、その後こういった市民まつりの交流ということで、議会サイドでは、どちらかというと流山市さんと交流を図っていると認識しております。では町の行政サイドでは、そういった交流ですね。そういったものは流山市の議会の方から聞こえてくるんですけれども、町長、むこうの市長、副市長あたりの交流は、大人しいのではないかなというふうに聞こえて、おっしゃっています。我々議会が、それなりに活発に交流しているという点は、町長は認識されてますでしょうか。それとまた行政サイドとして、これから教育委員会は教育委員会として、先ほどの前置きなあれありましたけれども、行政側としての、何か交流的なものが、これから行われるかどうか、お聞きしたいと思います。

●議長（佐藤武雄）　鈴木町長。

■町長（鈴木文雄）　まず議員の皆様方の交流につきましては承知しておりまして、特にいろんな機会を通じて、こちらに来ていただいたり、あるいはこちらから行っていただいているということも、承知をしているところであります。また、野尻湖の花火大会の翌日も、議員の皆さんが総合会館で、そば打ち体験をしていただいたりする。そういうような機会も設けていただきまして、大変喜んでおられるところを、私も拝見させていただきまして、こういったつながりといいますか、交流が更に今後とも継続され深められていくことを、大いに期待しているところでございます。その一方で、行政側の関わり方がもう一歩ではないかというご指摘は、甘んじて受けなければならないと思っておりますが、産業観光課を始めていたしまして、農産物あるいは木材のやり取り等もあります。そしてまた先ほど少し触れましたが、子どもたちの交流も現在もやっているわけですが、現在の形が流山市からこちらに来ていただくというのが、まあメインになっている感じがしておりましたので、教育委員会の皆さんとも相談させていただきながらで

すね。こちらからも、流山市の方に、子どもたちをお送りできるようなそんな取り組みを、今後は考えていきたい、というふうに思っているところであります。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6番（佐藤博一）　おおよそ私が想像したとおり、また議会の我々の交流なり、深めている面もご認識いただきまして、町長にも、お出になっていただいたりしました。ありがとうございます。行政サイドの交流は、あとでちょっと産業観光課長を中心に質問しますけれども、今回市民まつりに参加なさったと、昨年も参加されて、そういった市民まつりのようなお祭りを、町長は信濃町で、過去にもやったということは、情報として持っていらっしゃいますでしょうか。それは実際、私が関わっておりました10年前にやったことですけれども、一茶夏祭りというお祭りをやりました。これにつきましては、いきなり８月に開催ということで、６月会議に補正予算を上程しまして、議会で相当顰蹙を買った記憶がございます。ただしそのときは一茶の生誕250年でありましたので、県から200万、町から200万。あと私が個人的にではありませんが、寄附を募って町内、長野市内各事業者に集めて、その全体の半分近くを集めた記憶がございます。そういうふうにお金がかかるものでありますが、町からも出しながらも、県等いただけるところからも頑張ってもらう。さらにはただ、公務員の皆さんは当時も申し上げた記憶があるんですが、寄附を募って各事業者を回ることはできません。これはやはり公務員に対して、地位を利用したことになりますので、できたのがたまたま副町長であったという立場だけでございますので、どっちかというと、すれすれのラインで寄附を集めていたという記憶がございます。そういったお祭り事ですよね。ただただ１年間通じて、ここのところを見ていると、夏のトライアスロンが中止になるは、花火大会はやりましたけど、イベントがなんか縮小していくようなふうに感じられます。町民の方からも、春の一茶まつりもやりませんでしたし、非常になんかに寂しいですね、ということは声が聞こえてまいります。今年が一茶忌198回であったとすれば来年は199であり、今から準備していけば、来年、再来年は200回忌になります。そのときに、予算を今から作っていくぞ、というぐらいであれば、そんな急仕立てででもございませんので、町長も非難されないですむのじゃないかなと思います。今から200回に何かをまたやろうと、そのときのイベントに、今町の係長さん以上は、大体この一茶夏祭りに参加された経験を持っていらっしゃいます。ノウハウは皆さんかなり持っていらっしゃいますので、簡単に言うと、当時は柏原の小学校のグランドに、神楽を町中で最大で25基集まってもらいました。ただし、今は病院になってしまいましたので、なってしまいますので、神楽が集まるかどうかは、ちょっとそれはまた考えなければいけない話ですけれども、そういった200回忌を見据えた将来的な、何かお祭り、それより以前に流山市さんに参加されて、町長も羨ましいなあという気持ちは持たれましたでしょうか。いかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　鈴木町長。

■町長（鈴木文雄）　町民を挙げてのお祭りといいますか、イベントの企画についてでありますけれども、本当にですね、そのような企画、本当にこれからなんですけれども、大いに検討していきたいと思っております。特にですね。議員からもお話がありました一茶の 200 回忌、これを記念するもの、ちょうど町政 70 周年にもあたる年になると思っております。そしてまた昨年韓国で開催されました森林セラピーの世界大会についても、信濃町あるいは長野県で、引き続き継続したらどうかという提案もいただいておりますので、いろんな形で、年間を通じたイベントと言いますか、そういった物が企画できれば、面白いかなというふうに考えております。そういった中では、例えばトライアスロン大会、あるいは秋に行われました黒姫のクラフト祭りなども、一連の行事として、位置づけられれば、なおさら相乗効果のようなものも生まれてくるのかなというふうに感じているところであります。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一）　今町長の答弁の中で、非常に前向きに捉えていらっしゃるなというふうに感じました。相乗効果ということで、1 年を通じてやはり、信濃町はどちらかというと 1 年、春から始まり、冬までウインターシーズンまで年間通じて様々なイベントを行ってきた町のような記憶がございます。一番は、これはどちらかというと負担がかかるのはまず役場職員です。職員の力なしではできないことでありますし、また役場庁舎外には実行委員会なりつくって町民の方の力も必要ですし、そういうところでは町長が住民の皆さんに、町を挙げてということで、皆さんの、さあやるぞというような姿勢を示していただければ、また我々住民としましても、協力できるところは協力する。それがまたお客様にも、観光客に通じるところがあれば、また集客につながっていくという、いい効果を生めるような体制を、また今後考えていただければなと。今町長おっしゃられたように町政 70 周年。これはまた重要な町としてもイベント事となりますでしょうし、また先ほどの一茶の 200 回忌、その他森林セラピーもこれは 1 回限り、世界大会であれば 1 回だけになるでしょうし、過去にはブルーベリーの日本大会も信濃町で 10 年ちょっと前にやりました。それも一回だけだったんですけども、そういった信濃町に関わる様々なまだまだ、例えば、鍛冶屋さんの打ち刃物の産業というのもありますし、様々な産業を調べた上で、何か信濃町で大会ができるものがあるものであれば引っ張てくる。過去にもこれ質問かなんかで、申し上げたような記憶があるんですけれども、長野県知事の阿部知事さんが、俳句が非常に好きだということで、昔は信濃町で俳句サミットをやりたいということも、ちょっと話したことがあるのですけれども、知らぬまに消えてしまいました。そういった何かきっかけを作った上で、この町を浮上させていくようなものを考える。これがやはり、住民に最終的には戻っていくものではないかなと思っておりますので、住民のまた福祉の向上ですね。そういったところを産業の振興等につながるべく、町長お考えいただければなあと、今は特に、どうしてもこの夏祭りやってくださいではありませんが。きっかけをとにかくつかむというところが、これまたつかんで町長、副町長が、職員に号令をかけて、職員の皆さんが、また住民の皆さんとともに

という、いい形を作ってくださるようお願いしていければなと思っています。
次に産業観光課長さんにお伺いしたいのですが、昨日も同僚議員から質問で、夏の農産物、とうもろこしですね。流山市さんで給食にも使われたりしたと、町からも民間の事業者さんだと思うんですけれども、流山市さんにだいぶ販売もしたみたいでございます。そういった数字で示せるもの、もし課長さんの方で持っていらっしゃればお示しいただきたいのと、そういった数字があるとすれば、来年以降もどのような形でどうもろこしなら、とうもろこしで、夏の産物を流山市さんと関わりを作っていけるのかどうか、また先ほど町長からも、学校関係の林産財ですよね。そういったものも、これは森林組合さんが、もともときっかけだったと思うんですけれども、そういった経済効果が町内に及ぼしているもの、これが数字でもし示せるものがあれば数字でお知らせいただければなと思います。経済的な数字の質問でございますので、産業観光課長にお願いします。

●議長（佐藤武雄）　佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫）　経済的な数字というものは、ちょっと持ち合わせていないんですけれども、とうもろこしについては、今年は１万本だったと記憶しております。とうもろこしを通じての交流ですけれども、無理のない範囲と言いますかですね。どうしても鮮度的なものとか、輸送であるとかいろいろありますので、その辺は無理のないような形がいい、持続可能かなと考えます。それから町産材の利用につきましては、今森林組合さんとですね。年が明けてから流山市へ訪問を予定をしているところです。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6番（佐藤博一）　とうもろこしに関しては、ここと流山市さんの距離もありますので、大量にいかに運ぶか、その辺が、今年は１万本であったと、民間レベルではもう少し多くの数字が出たり、お持ちしたというふうに、私の方でも調べて聞いております。また、林産材に関しましては、まだまだ流山市さんは学校建築なり、続くでありますでしょうし、様々なところでお使いいただける。それも今、来年ですね。ご訪問いただけるということで、まさにこれが産業観光課長の営業マンとしてのお仕事でございますので、ぜひぜひ頑張っていただければなと思います。教育委員会にお伺いしたいんですけれども、先ほど町長からもちらっと伺ったんですが、来年の授業の下見に先方さんがお見えになったということでありますけれども、授業の下見というのはこれは林間学校であるのか、もしくは修学旅行であるのか、これは教育長でよろしいですか。答弁はお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄）　北村教育長。

■教育長（北村康彦）　来年、流山市の中学校が、本町を訪れる事についてのお尋ねでご

ざいますが、宿泊体験学習ということで、本町に訪れるということで伺っています。全ての中学校ということではなくて 2 校、3 校ということで計画されているようでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一）　わかりました。宿泊体験学習ということは、通常今までずっとやってきました民泊ということで、理解してよろしいんでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　北村教育長。

■教育長（北村康彦）　私の理解しているところにおきましては、そのように思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一）　民泊ということは町内に民泊を受け入れていらっしゃる皆様の組織があると思います。過去の記憶ですけども、100 何件あったような気がするんですけども、そういった組織の皆さんに、教育委員会としてお願いしながら受け入れるのかなと思うんですが、町として受け入れるに当たって、先方は先方の予算で来るんでしょうけども、町としては、そこに受け入れるものに対しまして予算立てが関わることはありますか、事務の教育次長、おねがいします。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　流山市の中学校の皆様が、民泊でおいでになることについての資金的なことだというふうに理解をいたしました。まず前提といたしまして、流山市内の中学校さんが、この町内に民泊宿泊体験学習においでになることについては、教育委員会としては関わっていない、あくまでも流山市さんの学校が直接民泊の事業者さんと交渉というか、おいでになる先の一つとして、信濃町を有り難いことに選んでいただいたということでございますので、この学校カリキュラムであります宿泊体験学習については、当教育委員会は関与していないというご理解でお願いいたします。ですので、当然それはあくまでも、流山市さんの予算で実施をされているものですので、当教育委員会としては特に資金的なものは出していないという状況でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一）　理解しました。そうなると皆さん流山市でお見えになったときに、どこかの総合体育館とか、まずは集合されて、そこで民泊の方が子どもさんを連れて、お

家に帰られて民泊されると思うんですけども、そういったところに町長なり、教育長なり、ご挨拶にはお伺いする予定はあるのでしょうか。町長、教育長。町長から。

●議長（佐藤武雄）　鈴木町長。

■町長（鈴木文雄）　当然ですね、来ていただいた子どもさんたちは、これから末永くお付き合いをさせていただく方々かと思いますので、挨拶をさせていただくのは当然だと思っております。

●議長（佐藤武雄）　北村教育長。

■教育長（北村康彦）　来たときの歓迎の挨拶をするかというお尋ねかと思いますが、まだ具体的には信濃小中学校の子どもたちが、どういうふうに交流するかとかそういうことは考えておりません。しかしながら、私が歓迎の言葉を述べるよりも、子どもたちが本当に交流をすることが可能であれば、信濃小中学校の子どもたちが代表でもいいですので、歓迎の言葉を述べると、本当に今、町長が答弁されたように、10 年後、20 年後の姉妹都市が本当により強固な関係になっていくのかなとおもいます。ただし、具体的な信濃小中学校としての交流については、まだ具体的なものがございませんので、それにつきましても教育委員会からやれっていうことではなくて、あくまでも子どもを中心に据えて、子どもの希望を大切にしながら構築していくものかと思います。また、その規模感が大分違うんでございますね。信濃小中学校は一つですけれども、流山は中学だけでも 10 校ぐらいあるかというふうに思います。ですので、向こうから中学生が来るたびに、こちらの子どもが出ていってということになると、それはそれで問題があるので、やはりこの人数の差も勘案しながら、両方の子どもたちがウインウインになる関係で、交流が進められればということを考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一）　挨拶に町長が出向いていただくのは、おっしゃる通り当たり前のことだということで理解しました。教育長のまたご答弁も子どもたち、その辺も考えてはいないけれども、ということで理解しました。流山市さんと先ほど教育長の答弁にありました。スケールがもう全く違うわけですね。子ども対まさに、向こうが大人で相撲を取るような話ですから、そこへやはりいきなり私ども、教育委員会としてもさあ何かしら、先ほど町長もまだ流山市さんから、子どもたちはいろいろ少年野球とか来ることは来るけど、こちらから行くことはまだ決まっていないと、教育長も子どもたちの希望があれば、というような話の答弁でありましたけども、ふだんの授業の中でちょっとお聞きしたいんですけども、教育次長にお伺いしますけども、姉妹都市のお勉強というのは、流市のことと、それから能登町のこと、そういったことは学校では生徒に情報は流しているんでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　ちょっと授業の内容ですので、承知をしていない部分がございますが、学校へは、当然両市町が少年野球の交流もありますので、承知はしているかというふうには理解をしております。以上でございます。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一）　野球関連等で承知はしているとおっしゃったんですけれども、やはりこれは学校の授業の一環なり、学校でやることではあるんでしょうけれども、また学校にそういったものも流山コーナー、能登コーナーみたいなものを作ってもらったら、子どもたちもより一層相手さんのことを知識を深めるでしょうし、それが先ほど教育長がおっしゃったように、子どもたちが向こうに行ってみたいなあという気持ちなり起きれば、それはそれで今度、東京の修学旅行行くとき、ついでに寄ってみるとか。流山市さんとの交流は、まさにこれからの未来の子どもたちに、ある程度託されている面ってあると思うんですよ。今まではどちらかというと、子どもは流山市さんが信濃町を避暑地のごとく考えて非常に遊びに来るという感覚が強かったんです。こちらから行くという感覚が非常に弱いです。いいとこ、野球チームが行くぐらいで、それもそんなに私も行ったのかな、という情報を持っておりません。他には、こちらから行くには非常に子どもたちが行きたいという気持ちを起こさせる、起こさせると言ったらあれですけれども、そういった情報をまた子どもたちに流していただければなと思います。では次の質問に入りたいと思います。次の質問は信濃町の認知度アップ。というところの質問を書いてみたんですけれども、質問しながら、結局は提案をしたい話になっていくんですが信濃町の認知度アップ。いろいろちょっとネット等で調べてみましたら、外の方々は、我々は信濃町の観光地の中に住んでいるものとして、お客様は観光の意欲があって見に行ってみたいなとか、それと一歩進めば、信濃町に住みたいなという移住の意欲。どこに目を行くかというと、健康増進なりに力を入れている町なのか、医療福祉に力を入れているか、そういった意味では来年病院がオープンします。高齢者福祉はどうなのか。信濃町の高齢化率とか、実際福祉的に介護施設等も、どう充実しているか。それよりもまして、うちの町は私は思うに、高齢者の方はかなり活発にまだまだ皆さん働いている町だなと思っております。それから、子育て環境としてどうなのか、最大のうち強みだなと思うのは自然環境ですよね。山があり、湖があり、非常に町の 70 パーセント森という、結構ここらへんが売りかなと思うんですけども、ただ売りは様々なものを組み合わせて、長野県は今まで大体いろんなところで、アンケートというかランキングすると、おおむね 10 位以内には長野県は入っております。ものによってはトップクラスのものも、例えば高齢福祉とかそういったものはトップクラスに入ってたりとかあります。では信濃町は何か入っているものないかなと調べたら無いんですよね。何となくぼやけた感じで信濃町はいいところだなというふうに、自分も今住んでいる身として、住めば都の状態

に自分が漬かってる状態でございます。町の長期振興計画を見ていくと、近隣の町として町が意識しているのは、小布施町、山ノ内町、野沢温泉村、そしてお隣の飯綱町であります。類似ということで県内を見ていくと、飯島町と池田町、大体似たような人口とかですね。規模で見ていると思うんですけども、これまたちょっと面白いものを発見しまして、町長がＮＨＫのアンケートにお答えになっています。非常に理想とする町はどこですかみたいなことがあって、町長がお答えされています。北海道の東川町というところを町長は目につけていました。なるほどなと思って驚いたのですが、ある民間の住宅会社の住み心地ナンバーワンということで選ばれたこともあります。北海道で旭川まで 30 分で行ける町、最大なのが大雪山の雪解け水を使って、上水道のない町、人口は 8000 人ぐらいだそうです。ということは水道代無料。これはすごい町だなと思って、これを町長が目につけて、さすが見てるところ違うなと思ったんですけど、その辺町長、答えた記憶ありますか。東川町。

●議長（佐藤武雄）　鈴木町長。

■町長（鈴木文雄）　イメージする町ということで、東川町挙げたのかどうか、ちょっと定かではありませんけれども、東川町については、マスコミのいろんな報道やネット上の情報なども見聞きしておりまして、信濃町と比較的、その条件的に似ている面があるということと、いろんな要素が絡まって、そういう結果になっているかと思いますが、人口減少もですね、ある程度抑えられているというようなことがありましたので、そしてまた地場産業をですね。町民の皆さん、そして行政がですね、ともどもに支えているという形もですね。お手本になるのかなというふうには考えていたところであります。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6 番（佐藤博一）　有名な町だということで、町長も目についたんだなというふうには思いました。といって先ほどの姉妹都市と関連して、東川町と姉妹都市に結びませんかとは言いません。相手さんは国内は見ておりません。見てたら、ほとんど姉妹都市は海外です。やはりそれだけ信濃町よりも一歩も二歩も進んでいる面はあるなと思いました。今後皆さん時間がありましたら、北海道の東川町というところを調べてもらえば、それはそれでまた信濃町の今町長のおっしゃるお手本とするようなところは、見受けられるかなと思います。通告書に書きました公共配付カード。こんな言葉を書いてみたんですが、別の呼び方も何かあろうかなと思うんですが、町長。こういった公共配付カードというのは聞いたことありますか。

●議長（佐藤武雄）　鈴木町長。

■町長（鈴木文雄）　公共配布カードでございますけれども、これは私も過去にため池カ

ードあるいは棚田カード、あるいはダム・マンホームといった構造物の理解を深めるために公共機関が作成、配布しているということで、承知しているところであります。全国的にも取り組みが広がっておりまして、この魅力といたしましては、カードの収集に合わせてその土地を訪ねる、訪れるというような形が非常に多いということで、外食あるいは買い物など、地域への波及効果も大きいというふうに承知しております。ただいま議員からもお話ありましたとおり、信濃町は優れた景観、自然環境にも恵まれています。そしてまた小林一茶、ナウマンゾウといった歴史的文化的な資源も恵まれておりますので、観光のコンテンツをつなげるような形でこういったカードを利用することもですね、一つの選択肢だというふうに考えているところであります。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6番（佐藤博一）　町長ご理解いただけていたなと、過去のお仕事柄、ため池、棚田、ダム非常に関わりのあったマンホール等全て、さすが町長だなというふうに、今思いました。公共配布カードというのは、大分時間も経っておりますし、今町長おっしゃったように、信濃町の認知、これがまさに今回のこの認知度アップにつなげたいんですけれども、それの認知度アップや、地域の活性化、今町長おっしゃったように来訪者増、また周遊効果ですね。これは町内の様々なものをつなげて回っていただくという効果が起きるのではないかなと、実にこれは地味な発想ではあるんですが、よくあるものであります。今、一番流行りはマンホール。マンホールカードです。そこに町の三館の文化財とか観光地、食材、それからゆるキャラの一茶さんも活用したりとかすれば、こういったものもこれからのお客様の増につなげていくことができるのではないかと。それは今度、実際実働部隊の産業観光課長にお伺いしますが、こういったことは、町で予算組して、例えば外の観光協会等にお願いして作ることは十分可能かなと思っているんですけど、いかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫）　カード収集等で来訪者増が見込めるというようことがございます。一方で電子、スマホ等の普及もありまして、いろんなＰＲの形が、今あるかと考えますので、その辺は総合的に考えていく必要があるというふうに思います。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤博一議員。

◆6番（佐藤博一）　通告書には地味ということに書いたんですが、非常にこれ、古典的なやり方で、紙を配ると。今それに対応して、産業観光課長は電子的なものもある。これ今年度、まさにスタンプラリーは、スマホで読み取って、できるものは観光協会かな、やっていたと思います。まさにおっしゃる通り、両方使いでやりながら、信濃町を売り

込んでいっていただければいいかなと思います。お願いしたいと思います。ホームページである一つのところを見ていて、ありえない町というところの移住のところを見たんですけれども、子ども議会の写真が出ておりまして、我々のここで子どもさんが中学生が、町の皆さんを相手に質問をして、その後ろの並んでいる席を見たら、今の 3 期目の皆さんが、当時は 7 人いたみたいなんですけども、ゾロゾロと出てて、もう 10 年以上前の古い写真を使ってますね。こういったもので移住をやろうという、このずれた感覚の発信の方法は、総務課長いかがなんでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　松木総務課長。

■総務課長（松木和幸）　ホームページといいますか、これ移住支援サイトになります。ありえない田舎町。直近 1 年間で 33 万 7000 回ぐらいの閲覧数のある大変人気のあるサイトです。今、ご指摘のあった部分については、ご指摘いただきましたので、至急直させていただきましたが、なぜこういうものを載せているかというと、信濃町の特色あるものを載せるんですね。そうすると、移住する皆さんが目を引くと。信濃町はこういうことをやっていますよと。なかなか子ども議会というのは、なかなかやってる所ないんですよね。ただ今はやってないので、ちょっと残念なんですが、やはりこういうサイトに目が行くかどうか、やはり目を引いていただかなきゃいけない。そういうことで載せているものです。こういうことの取り組みのおかげで、移住をテーマにしたテレビ番組等からの取材もありまして、それでまたＰＲにつながっていると、こういう状況ですので、大変良いサイトであるというふうには自負をしておるところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一）　自負していらっしゃるのであれば、鮮度をもう少し高めていただいて、ちょっといやらしい質問で申し訳ございませんが、写真等はできるだけ新しいものを使いながら、非常に 33 万というのはものすごい数だと思います。更に数字を上げてくださるよう、スタッフは多分すばらしい方が揃っていると思うんです。あとはもう、写真の選び方だけだなと思います。では次の質問にいきたいと思います。次は保育・教育環境について、昨日また同僚議員が質問されておりました。6 月にも同僚議員が学校のエアコンについて質問されていました。それにつきまして私はちょっと違う観点から聞きたいんですけども、まず昨日答弁いただいた中で今年の夏を過ごして、小中学生または保護者の皆さんからアンケート等でエアコンの要望、それから地域の懇談会でもエアコンの要望があったということで、結構要望はあるみたいでございますが、子どもさんたちまた保護者の皆さんからダイレクトで暑い暑いというような意見は、事務の方で見ている教育次長の方にはなにかエアコン、特に子どもさんですね。その辺の意見は来ていましたでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　子どもさんからの直接の要望ということのご質問かと思います。なかなか直接子どもさんとお会いする機会も、儀式のところでしかないので、お伺いはしていませんが、学校の先生を通じて、暑いと言っていますということは何度もお聞きしています。以上でございます。

◆6番（佐藤博一）　どうせみんな暑いっておっしゃるんで、先生も暑いと伝えるのが、それが仕事だなと思います。昨日同僚議員も財源の話ですよね。エアコンを入れていくに当たってというような、財源の話が出ていたんですけれども、教育長の方からも町長からも、その必要性は十分認識、認めていらっしゃるというふうに、お二方答弁されていました。町長においてはできるだけ早くやりたい。教育長も起債をしてもやりたい。やりたいという気持ちはお二人とも前のめりにあるんですけれども、じゃあ果たして実際やるかというと、来年度予算は今もうそろそろ出来上がってくるんでしょうけども、多分入ってないような気がします。本当にやりたい気持ちがあるのであれば、本当にその財源をどう見つけてくるか、これこそまさに町長の仕事であって、国にどう乗り込んでいくか、どこにいくか。国と、今うちの近隣で先ほどの近隣の町じゃありませんけども、お隣の飯綱町さんは、かなり今、国と強いパイプもっています。であれば隣の町長のところにお邪魔して国のどこか紹介してくれとかね。やはりそのくらいの意気込み、もしくは県に行くとか、じゃあ手分けして教育長は県に行くとかね。町長は国に行くとか。そういう本当に子どもたちのことを思うんであれば、お金をまずトップが動いて算段してくる。事務方に決まりきったものを集めてこいと言ったって、事務方はそんなに集めにくいです。やはり、トップが動かないと集まらない。ちょっとお聞きしたいんですけども、こういったエアコンを導入するに当たってですね。これまた事務的な話ですけども、民間から寄附を集めるとか、そういうことというのはあり得ますか、あり得ませんでしょうか。次長。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　現時点では、民間から寄附を集めるということは想定はしておりませんが、一般的に議員さんおっしゃったように既にある国の補助金、県の補助金につきましては、想定している補助金につきましては、学校施設環境改善交付金という補助金がございます。補助率は3分の1でございますが、これは該当させていきたいなというふうに思っております。以上でございます。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6番（佐藤博一）　今、該当させていきたいなと思っているというふうにおっしゃったんですが、ということは来年度、今ここであまり聞いて良いのかわかんないですけども、エアコンにだいぶもう、同僚議員からも熱い質問等が行ったわけですから、エアコンに

もう走り始めているというふうに理解してよろしいですか。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　そうですね。なかなか答えにくいというか、これから実際に予算のヒアリングもございます。ただ着手はしていきたいなというふうに教育委員会では考えておりますが、全体の予算のこともありますので、実際はこれからの交渉という言葉がいいかどうかわかりませんが、設計には入っていけたらいいな、というふうには、教育委員会では考えています。以上でございます。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6番（佐藤博一）　ということはかなり前向きに動いているというふうに、これは町民の皆さんもこの放送でわかるわけですし、3分の1がそういった決まりきったもらえるものがあるとなれば、町長、残りの3分の2でございます。また、教育長も3分の2でございます。そういった面はトップとしてやはりどう考えていくか。また一番は、前からずっと来年の病院のことが皆さん頭にあって、病院がオープンするまでは、オープンするまではって、非常に皆さん我慢に我慢を重ねてきたような気がします。であれば、もう来年の9月オープンということがもう分かったわけですから、今度は学校の子どもたちに照準を合わせて、もう今、教育次長が設計というような話も言ってくださいました。そういうふうに目を合わせていただければよろしいかなと思います。それまでの間の経過措置じゃありませんけども、ちょっと私が考えてみたのは、これもあり得るかは分からないんですけども、昨日同僚議員が調べていただいた中で、学校の中の環境の基準というようなことで、温度の話は同僚議員も言っていました。であればその基準の中に、場所の位置、場所の位置が3年生が3階であるべきというのはありうるんですか。というのは年数が上に行けば行くほど、階の上にいなければいけないというようなことはあるのかなという考えがありまして、というのは良く分譲マンションかなんかで、一番上の階に住んでる人は夏は相当暑い、というようなことをおっしゃってます。上が暑ければ下に移動すればいいんじゃないかという発想がわいたわけなんですけれども、経過措置として、例えば本当の夏の暑いときは1階に3年生を持ってくるとか、受験生がもっと1階の涼しいような場所で風のくるところに行って過ごしてもらうとか。それかちょっと乱暴な発言ですけれども、病院が移転した後、空くわけですよね。エアコンたっぷりあるわけですから、病院を使って夏の間だけ授業に使うとか、エアコンを学校に持ってくるとか、やはりいろいろ活用することを決まりきったことじゃなくて、活用ということでいろんなふうに頭をめぐらせながら、だから先ほども民間からのお金もありませんでしょうかっていうところも、発想を切り替えていってもらえればなと思います。3年生は上にいたら暑いのは当たり前なので、であれば下へ持ってくるとかね。夏の間だけとか、そういうどこで授業を受けなきゃいけないのかという基準というのはあるんでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　教室の位置を変更したらどうかというご意見というかご質問かと思います。前提といたしまして、まず学校の構造につきましては、どうしても３階建てということで、１年生から９年生までおりますが、体力の差も考えて下から順に１年生、４年生、７年生以上というような形で作ってあります。ですので、洗面台とかトイレのサイズもそのように作ってありますので、なかなかちょっと階を変えるのは、もしかしたらちょっと厳しいかなと思います。ただ現実の問題としまして、クラス数が減ってきていまして、例えば一番上の３階ですが、今空いている教室もございます。ご存じのように、採光の問題で、採光と一番は冬の温度のことがあったかと思うんですけども、校舎が南側に、教室が一列に並んでいます。ただやはり、体感といたしましても、西日が当たる教室が、一番きついかなというふうに考えております。また、校舎の構造上も、一番西側にいる校舎のところは、北側に階段が付いておりますので、窓が開かないという状況もございますので、同じ階の中で少し融通することはできるのではないかというふうに思いますので、また、学校へも提案をしてまいりたいなというふうに考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6番（佐藤博一）　民間会社なんかで、新しく本社ビルなどを建てると、書いたようにアドレスフリーという、パソコンや何かも、机の上に置かないで、両サイドの例えば引き出しに入れておいて、仕事をする人だけ、真ん中に持ってきて仕事する的な、そういったもので、好きなところに居を構える的な、それもまた学校で、先ほどおトイレの話はちょっと驚きました。上と下で小さい子と大きい子では違うというのはびっくりしました。だいぶ時間ないんですけども、学校が今余ってるという話、教室ですね。これは保護者からも、そういった指摘ってのは、余ってますねって話がよくありますか。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　余剰教室というとちょっと誤解がありますが、現在あいている教室の利用方法等について保護者からご意見はということでございますが、特に保護者からはいただいておりません。ただ現在空き教室についても、ただ机を置いておくだけではなくて、ミーティングルームや放課後の自習スペースとして使ったりをしています。また空き教室が出てきているということで、今年度から放課後の授業を、今まで交流施設でやっておりましたが、放課後子ども教室を学校の空き教室をお借りして実施することといたしました。以上でございます。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6番（佐藤博一）　学校は学校、教育委員会も教育委員会として無駄なく活用されている

のは理解しました。最後、ちょっとだいぶ時間がないんですけれども、保育園施設の老朽化という質問ですが、そのよりも前の前提として、前回のこれも教育長の答弁か何かの中で、保育園のあり方検討委員会の中に、教育長の答弁に、一つは少子高齢化だと、もう一つは建物の老朽化ということは答弁でおっしゃっていました。であれば老朽化ということで、これはまさに数字的な話ですけれども、4園の建築後の経過年数と、また耐震化全部やっていると思うんですが、その耐震化をしてからの経過年数4園、全部で８戸あると思うんですが、年数を教えてください。

●議長（佐藤武雄）　外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子）　保育園施設の老朽化ということで、建築年度等についてご質問いただきました。では申し上げます。野尻保育園でございますが、昭和46年12月に完成、これは木造でございます。53年が経過しております。耐震補強につきましては、平成24年11月に竣工し、12年が経過したところでございます。柏原保育園につきましては、鉄筋コンクリート造りで、昭和58年3月に完成し、41年が経過しております。新耐震基準の建物であるため、耐震強工事は実施していません。古間保育園につきましても同じく鉄筋コンクリート造りで、平成3年8月に竣工し、33年が経過しております。柏原と同じく新耐震基準の建物であるため補強は実施をしておりません。富士里保育園、これは木造園舎でございますが、昭和48年12月に完成し、51年が経過しているところでございます。耐震補強工事につきましては、平成24年11月に竣工し、野尻と同じく12年が経過したところでございます。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6番（佐藤博一）　数字をお調べいただきありがとうございます。みんな造ってから30年、40年、多いのは50年を超えてきていると、だいぶくたびれている建物だなあというふうに感じます。こういった保育園を使っていく上で、耐用年数という、そういった概念というのはあるのでしょうか。コンクリートで造った役場庁舎等は、何年とかありますし、橋梁も何年とかあるんでしょうけど、こういう公共施設の保育園というのは、耐用年数というのは、決まり事がありますでしょうか。

●議長（佐藤武雄）　外谷場次長。

■教育次長（外谷場佳子）　耐用年数につきましては木造であろうと鉄筋コンクリート造りであろうと、適用というか、該当になるかと思います。今ほど申し上げました野尻と富士里につきましては木造ということで、一般的に木造の店舗用住宅用のもので22年というふうに言われています。そういった意味ではそれぞれ耐用年数を経過しているという考え方になるかと思います。柏原、古間につきましては、鉄筋コンクリート造りで、同じく耐用年数につきましては、ＲＣ構造店舗住宅用のもので47年ですのでまだ期間

内。ただ、耐用年数というのは一般的に通常使われるであろう期間でありまして、これが切れた、超えたからといって、すぐに使用できなくなるというものではなく、即座に危険な状況でもないことから、修繕なりを行って、使用している状況でございます。あくまでも減価償却、資産価値という意味では 22 年になり 47 年ということはありますが、資産価値、資産計上上の価値がないからといって、使えないわけではないということでございますので、今申し上げたとおり、修繕等を施しながら使っているという状況でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄）　佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一）　ちょっとすみません。時間を押しました。最後に一言言って終わります。いろいろ細かい事お聞きしましたが、保育園も学校も教育も一つには 3 年単位が一つですよね。保育園が 3 年、学校も低学年と小学校の低学年と高学年と中学生の 3 年 3 年単位で、物事、動くんじゃないかなと思っております。今回のあり方検討委員会は 2 年という任期ですから、その間に答え出そうとしているでしょうけれども、のんびりしていたら、子どもたち 3 年であっという間に次のステージへ上がってしまいます。保育園は次のまた子供たちを迎えなきゃいけなくなりますので、できるだけ教育委員会さんとしてもスピード感というのを求められると思いますので、どうぞよろしくお願いします。以上で終わります。

●議長（佐藤武雄）　以上で、佐藤博一議員の一般質問を終わります。
この際申し上ます。昼食のため午後 1 時まで休憩といたします。

（終了　午前 11 時 35 分）